

## 事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月25日

事業所名 コペルプラス海老名門沢橋 教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一軒屋タイプのため、プレイルームと教場の階が分かれており、ご家族が安心して見学できる</li> <li>・プレイルームが狭いため、SL実施時に利用人数に制限がある</li> </ul>	⇒プログラム内容や提示の仕方を工夫する必要がある
	②	職員の配置数は適切である				
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている			<ul style="list-style-type: none"> <li>・階段、段差があるが指導員の配慮があり現時点で問題はない</li> <li>・一軒家であるため、バリアフリー構造でなく、身体の利用者には制限が設けられる構造である</li> </ul>	⇒指導員内で介護スキルがあるため、身体障害やでも利用が出来る環境は整えられている
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている			<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に気を配っている</li> <li>・その都度、児童が利用する前に必要に応じて清掃を行っている</li> </ul>	
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している			<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ずミーティングを行っている</li> <li>・毎月、児童の目標に向けての対応に繋がる会議を実施している</li> </ul>	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている			<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから行う</li> <li>・評価をまとめ、指導員に掲示する予定</li> </ul>	

	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している			・実施予定	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				⇒実施なし。必要に応じて本部と相談し実施をする
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している			・定期的に行っている ・毎月、指導員の課題を抽出し実施している	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している			・レッスンの実施状況や、指導員からの意見を徴収し作成をしている	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している			・内容を年齢に合わせて設定している	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている				

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている			・実施しやすいよう詳細に記載している ・実施時に目に入りやすいよう、別紙を用意している	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている			・前職員で話し合いを行っている	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している			・BOXを変更したり、追加で課題を用意している ・児童が楽しめるよう、提示の仕方に工夫をしている	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している			・レッスン以外の時間帯も含めた社会性を	

				高める計画を組み込んでいる	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		・就業時にミーティングを実施している	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		・レッスン終了都度、話す機会を設けている。 ・記録に情報を残すようにしている	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		・レッスンの記録はその日に完結するよう指導をしている	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		・児童管理責任者が実施している	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		・各市町村との関係者と関係構築を図っている	
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		・利用児童なし	
	㉔	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		・利用児童なし	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		・支援状況及びご家族の要望に合わせて実施している	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		・支援状況及びご家族の要望に合わせて実施している	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		・市の発達センター主催研修に参加している	

	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある				⇒必要に応じて実施を検討する
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			・協議会に参加している	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている			・得た情報をその都度共有している	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている				⇒現在、実施なし。取り組みを検討していく
保護者への説明責任等	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている			・契約時に実施 ・自由に閲覧出来るように配置している	
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている			・本療育開始時、および計画書終了前に説明を行い同意をえている	
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている			・フィードバックの時間を設けている	
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				⇒父母会の実施なし。同時刻の利用者間で、話がしやすい環境づくりを行っている
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している			・当日でも行っている ・柔軟性を持ち、臨機応変に取り組んでいる	
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している			・SNS を活用し発信している	
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意している			・配慮をしている	
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている			・分かりやすく提示をしたり、メモを使っている ・言葉の使い方に配慮をしている	

	④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			・開校時、地域住民に挨拶を行い、見学の受け入れを行っている	
非常時等の対応	④②	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している			・定期的にマニュアルを確認している	
	④③	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			・定期的に実施し実施状況を SNS で発信している	
	④④	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している			・玄関で健康チェックを行っている	
	④⑤	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている			・契約時にアレルギーの確認をしている	
	④⑥	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			・作成し、閲覧をしている	
	④⑦	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている			・定期的に研修を行いマニュアルの確認を行っている。 ・行き過ぎた行為に対して指導を行っている	
	④⑧	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。